

すくすく たけのこ



“春”桜に想う

この度は、「関西創価小学校 きっずくらぶ」に入会いただき、誠にありがとうございます。

本くらぶでは、お子様と保護者のみなさまが親子で楽しめる動画やグッズ、教育に関する情報をデジタルコンテンツとして配信していきます。

どうぞ、ご期待ください。



さて、関西創価小学校には、80本を超える桜と「平和竹林」という竹林があります。「桜と竹の学校」と謳われる本校の桜や竹林の景観は見事で、地域の名所のひとつになっています。今年も新入生が元気に桜のトンネルをくぐって通学し、たけのこ掘りを体験します。

開校当時、まだ小さな桜の苗木の前で、先輩が「桜梅桃李（おうばいとりのり）」という言葉は、自分らしく輝く大切さを説いているんだよ。子どもたち一人一人の可能性を开花させるのが創価教育だよ」と語ってくれました。そして、「桜梅桃李」の『桜・梅・桃・李』は、どの順番に开花するか知っている!？」と突然問われ、私は答えに窮してしまいました。

皆さんは、どのような順番だと思いますか。

「全部バラ科の樹木だけど、咲くのは、『梅→桃・李→桜』の順だよ※」と、優しくその先輩は、教えてくれました。“桜梅桃李”ならぬ、“梅桃李桜”です。

一人一人が、自分らしく輝く“素晴らしい個性”をもっているということ、そして、その力を“本領発揮する時期”も異なるということのことです。

「子どもが持つ可能性を最後まで信じ抜くこと」それが創価教育であり、“信じること”、“信じてかわること”、それが「育む力」です。



本校にあるたくさんの桜の中でも、一段と大きく、見事な花を咲かせる桜の木があります。それが「開校時」に植樹された桜で、根元には、「第1回入学記念植樹 創立者」のプレートが付けられて

います。私はもちろん春の桜も大好きですが、寒風に吹かれた桜の裸木を眺めるのも好きです。冬の桜の木は、裸木で、一見、春をただ待っているだけのように見えますが、そうではありません。桜の花芽は冬の寒さにさらされることで、眠っている状態から目覚めるといいます。それが「休眠打破」です。桜は、**敢えて寒さを受け入れて開花の力に変える**のです。

うまくいかないことや、想定外の出来事が次々と起こるのが教育や子育てです。そうしたときに、“あのゴツゴツした樹皮の桜の木からも、いつか必ず美しい花が咲く”と信じて前に進むこと、そう思えば、寒風に吹かれる桜の裸木も、愛おしく思えてきます。「寒さに震えた者ほど、太陽の暖かさを知る」とのホイットマンの言葉が心に染みます。



中央にペン、その左右に鳳雛の羽を象った創価学園の校章。創価小学校の校章は、それを桜の花びらが包んでいます。それは、いつも子どもたちの無限の可能性を信じ、励ましのエールを送り続けてくださる創立者・池田大作先生のお心そのものを表しているように感じます。

春を告げた梅の花から春の主役のバトンを受け取った桜。それも間もなく新緑の木々へバトンを渡します。関西創価小学校の豊かな自然は、私たちに多くのことを教えてくれています。(晃)



※咲く順序については、地域や品種で違いがでる場合もあります。



「ありのまま」と「そのまま」

ある先哲の言葉に『はたらかさず・つくろわず・もとのまま』とあります。ありのままがいいんです。ありのままの自分が尊いんです。取り繕った分、気取った分、自分が弱くなってしまふ。

『ありのまま』と『そのまま』は違います。そのままがいい、というのでは成長は

ない。自分とは何か、何のために生きるのか——それを追求しながら、努力して、努力して、努力し抜いていくなかでこそ、自分自身の使命の花を咲かせることができる。それが、桜梅桃李の実践なのです。

人間革命なくして、真に自分自身に生きることはできません。

(創立者『幸福と平和を創る智慧』)